



学校だより



9月号 県立藤沢養護学校 平成28年 9月 1日

長い夏休みも終わりましたが、みなさんはどのような夏休みを過ごされましたか。新学期を迎え、笑顔と賑やかな声が学校に溢れ「活気」が戻ってきました。まだまだ暑い日が続きますが、体調に気をつけてお過ごしください。2学期もご協力宜しくお願い致します。



さあ、2学期の始まりです。

校長 佐藤元治

夏休みも終わり、今日から2学期が始まりました。みなさんはどんな夏休みを過ごしましたか？お出かけしたり、普段は会えない人たちと会ったり、おいしいものを食べたりと色々な楽しい思い出ができたのではないのでしょうか。

今年の夏はブラジルのリオデジャネイロでオリンピックがありました。世界の舞台に立ち頂点を目指す選手たちのキラキラとした輝きや、表彰台でメダルをかけられガッツポーズで喜びを表す姿、勝負に敗れうつむき悔し涙を流す姿など、台本のないすばらしいドラマがたくさんありました。そんな選手たちを応援していると、「目標を持つこと」「目標に向かって努力すること」「続けること」の大切さをつくづく感じさせられます。

才能は誰しもが持っているものではないかもしれませんが、でも、せっかくの才能も何もしなければ埋もれてしまいます。初めての出場でメダルを手にした人もいれば、今回もメダルには届かなかった人もいます。前回のメダリストと期待されていながらも力を発揮しきれなかった人もいれば、追われる立場のプレッシャーに打ち勝ち再びメダルを手にした人もいます。今日の結果は今日や昨日だけのがんばりが形になったわけではなく、4年という時間の積み重ねが、大きく実を結んだのではないのでしょうか。皆さんも将来のなりたい自分を目指して、目標に向かって努力を続けてください。先生たちは応援しています。

保護者のみなさま

長い夏休みが終わり、少しだけほっとされていることと思います。2学期が始まり、子どもたちの笑顔とともに学校にも活気が戻り、ひとまわり成長し、頼もしくなった子どもたちにまた会えたことをとてもうれしく思います。

夏期休業に入ってからすぐに相模原で悲しい事件が起きてしまいました。ご冥福をお祈りすると共にお見舞いを申し上げます。学校でも引き続き、子どもたちに命の大切さについて伝え、共に学んでいこうと思っています。

今学期も子どもたち一人ひとりの成長を見守り、支えていくことはもちろん、学校の安全が保たれ子どもたちの笑顔が守られていくよう職員一同知恵と力を出し合いながら日々努めて参りたいと思っております。

引き続き藤沢養護学校の教育活動にご理解と、お力添えをくださいますようお願いいたします。

先輩から後輩へつなぐ宿泊学習

鎌倉分教室1年担任 森雅仁

鎌倉分教室1・2年は7月11日～13日に足柄ふれあいの村へ宿泊学習に行ってきました。鎌倉分教室では昨年から、1・2年が合同で同じ場所で宿泊学習を行っているため、2年生にとっては2度目の足柄ふれあいの村になります。活動内容もほとんど同じであるため、中には「また同じことするの?」と不満を漏らしている生徒も見られました。しかし、1・2年生が合同で宿泊することには、とても素晴らしい効果がありました。今回はそのことについてお伝えできればと思います。

分教室ではこの日の為に、登山トレーニングや火起こしと、かまどを使った野外調理の練習、係の活動準備に入浴練習と様々な事前学習をしてきました。その中では、2年生の先輩が1年生に対して、これまでの経験と学んだ事をもとに、様々な事を教える場面がありました。特に火起こしでは、2年生が昨年度からかまどを使った調理を何度も経験し、コツや注意点をよく理解しているので、1年生をしっかりとリードしながら、かまどの技術を直伝してくれました。話が逸れますが、入浴練習を通して宿泊に対して不安感を持っていた生徒が、「宿泊が楽しみです!」と期待できるようになりました。宿泊までの事前学習の重要性を改めて感じた瞬間でした。

閑話休題、当日の宿泊学習でも、部屋割りや野外炊事、係活動や登山など、あらゆる場面で1・2年生が一緒のグループに分けられ、その中で話し合い、協力し合っていました。活動の担当を決める際にも2年生が1年生に教えられるよう、ペアを作って役割分担をするなど、「来年はあなたたちがこうやって新しい1年に教えるんだよ!」という2年生の思いが、随所に見られました。

2年生自身が自分の成長を強く感じているな、と思われたのは足柄ふれあいの村からほど近い明神ヶ岳の山頂を目指した登山でした。山頂グループには、昨年は中腹まで行き引き返すグループで参加した生徒が多数いました。登りでは汗びっしょりでヘトヘトだった生徒たちも、下りでは山岳地図のコースタイムを上回るペースで歩き、笑顔で下りてきていました。「去年は登れなくて、今年はキツかったけど頂上まで登れて楽しかった!」という感想が口ぐちに出た事が、何よりも生徒たちの充実感を表していたと思います。

また、1年生にとっても、先輩の逞しい姿、頼れる背中をしっかりと見られたことが、自分たちにとって良い目標となった宿泊だったと思います。2年生から1年生へ様々なことをつたえ、つながり、たすけあった分教室の宿泊学習でした。



スポーツクラブ バasketボール

夏季チャレンジカップ

高等部3年担任 山口浩司

去る7月26日、男子7名、女子5名で特体連バスケット夏季チャレンジカップに出場しました。朝早くから六会日大前駅に集まり、みんなでスクールバスに乗って平塚サンライフアリーナへ向かいました。行きバスの中では楽しい話題が飛び交い、意気揚々とした雰囲気でした。

現地の体育館内は冷房がはいってはいましたが、それでも選手のみんはすぐに汗だくになっていました。荷物を置くなり、すぐにウォーミングアップを始め、第1試合が始まりました。試合はトーナメント方式で、男子は鶴見、武山、ひなたやま、金沢養護学校と対戦し、結果4位でした。女子は相模原、麻生、金沢養護学校と対戦し、結果5位でした。会場では選手もベンチも応援席も一体となって、一所懸命に全力で戦いました。どの試合も息の詰まる白熱した戦いが繰り広げられ、笑いあり、涙あり、感動の連続でした。試合時間が10分間の前後半と、とても長く、選手によっては疲弊しきっている様子も見られ、それでも3年生が後輩を引っ張り、後輩は先輩の背中を見て精一杯がんばっていました。

少ない人数で交代もできない中、みんなのあきらめない姿・・・すばらしかった。選手のみなさん、お疲れさま。そして、応援に来てくださった保護者のみなさま、温かいご声援ありがとうございました。





「わくわくチャレンジ」～ありがとうございました～

高等部3年担任 平野愛恵

8月4日(木)に今年もわくわくチャレンジが行われました。今年も近隣の亀井野小・天神小・六会小の3～6年生と一緒に、陶芸、手話、リボンレイ、チアダンス、iPadと5つの講座を開催しました。友だちと誘い合わせて参加したり、初めて会う他校の人と少し照れつつ一緒に作業をし、一生懸命に粘土を練り、ダンスを覚えたり、手話で表現してみたり、iPadでゲームをし、最後まであきらめずにリボンレイを完成させる等、みんな笑顔になり真剣な表情で積極的に活動に取り組みました。活動が終わり受付で待っていると「楽しかったあ〜」「早くできないかなあ〜、楽しみだなあ〜」と嬉しそうな表情を見せてくれたので「企画してよかった」と思いました。また、陶芸を参観されていた保護者の方からは「様々な工夫がされていて、小学生でも簡単にお皿が作れるようになってるんですね」と声をかけていただきました。普段校内で行っている活動に少しでも触れていただき嬉しく思います。また、来年も名前のように『わくわく』したチャレンジができるといいなあ〜と思います。ありがとうございました。

4 コマまんがコーナー **ふじよん!**

(タイトル: どう森のとたけけ)

☆リレーコラム☆ 『私と映画とディカプリオ』

鈴木國男

私の趣味は、映画鑑賞です。他にもランニング、旅行、アート等にも興味津々ですが。

映画の魅力は、エンターテインメントとしての楽しさはもちろんのこと、自分といろいろな世界を繋いでくれるところにあります。ディカプリオとの出会いは、特別支援学校の教諭になってから。出世作「ギルバート・グレブ」で彼は、自閉症の少年を演じました。それはもうびっくり、まさに迫真の演技でした。自閉症の少年がここまでできるのか、と思ったくらいです。代表作「タイタニック」は、ラブストーリー・特撮映画として有名です。と同時に随所に自然への畏敬の念も感じさせます。また彼はアーティストを演じているので、親近感を抱きました。そして今年、5度目のノミネートで初めて主演男優賞を受賞しました。苦勞とは、無縁のように見えるレオ様も努力の人だったのですね。出演作「レヴェナント・蘇りし者」は、親子関係や自然との共生を描いています。まるでテクノロジー中心の世界に警笛を鳴らしているかのようです。このように映画は、私といろいろな世界と私を繋いでいると同時に生きる上での問題提起、さらには問題解決の糸口にもなっています。

“いやあ映画って、ホントにいいもんですね〜”



作: 高等部1年生

*イラストカット: 小学部5年生の生徒が描いたものです